

## 日本路面電車同好会

1970年4月設立 会員 約200名  
会費 6,000円(2024年現在)

当会は路面電車を趣味の対象として1970年に創立されました。主な活動は、①会報「とろりい・らいんず」の年6回の発行(現在311号まで発行)・路面電車ハンドブックの発行(現在第12版まで発行)②例会の開催(東京・名古屋・大阪で開催)、③年1回、旅行会を開催し、各地の路面電車を訪問(2023年は第48回として宇都宮ライトレールを訪問)などがあります。また、支部が名古屋・関西にあり、京都梅小路公園の市電ひろばに保存されている車両の清掃ボランティア・イベント協力や京都市立白河総合支援学校生徒へのレクチャーなど社会貢献活動を行っています。

2020年には、創立50周年を迎え、鉄道図書刊行会の鉄道ピクトリアル2021年11月号別冊で「路面電車 半世紀の歩みとともに」日本路面電車同好会 創立50周年記念誌を発行していただきました。今後も、各種の活動で日本の路面電車の応援を続けていきたいと考えています。



左：創立50周年記念誌、中：宇都宮ライトレール現地見学会、右：京都市立白河総合支援学校生徒へのレクチャー

## 全国路面電車ネットワーク

平成15年設立、会員 登録者数140名  
会費 無し

地域公共交通や“まちづくり”に関する情報ネットワーク組織として設立され、参加者は個人として参加して各地の課題を共有化し、市民の立場から国会や行政に対し働きかけ、提言を行っている。

コロナ禍の影響が出始めた2020年4月以来、主要メンバー、学識者によるミーティングをオンラインにて毎週開催し(2023年12月末時点で計188回実施)、危機的な状況にある公共交通の維持、生き残りに向けた具体策や関連制度制定について検討、意見交換を行っている。

これに基づく活動として、2020年末に全国50数団体の賛同を得て「新型コロナウイルスによる交通崩壊を防ぐための緊急アピール」および「コロナ禍後の地域公共交通に向けた具体策と制度の提案」を発表した。

直近の活動として、昨年12月に開催された超党派国会議員の集まりである「新交通システム推進議員連盟(通称：LRT推進議員連盟)」の総会に出席し、公共交通を取り巻く各地の課題や持続可能な都市モビリティ計画(SUMP)導入に向けた情報提供を行った。

